

倶多楽

1 概況

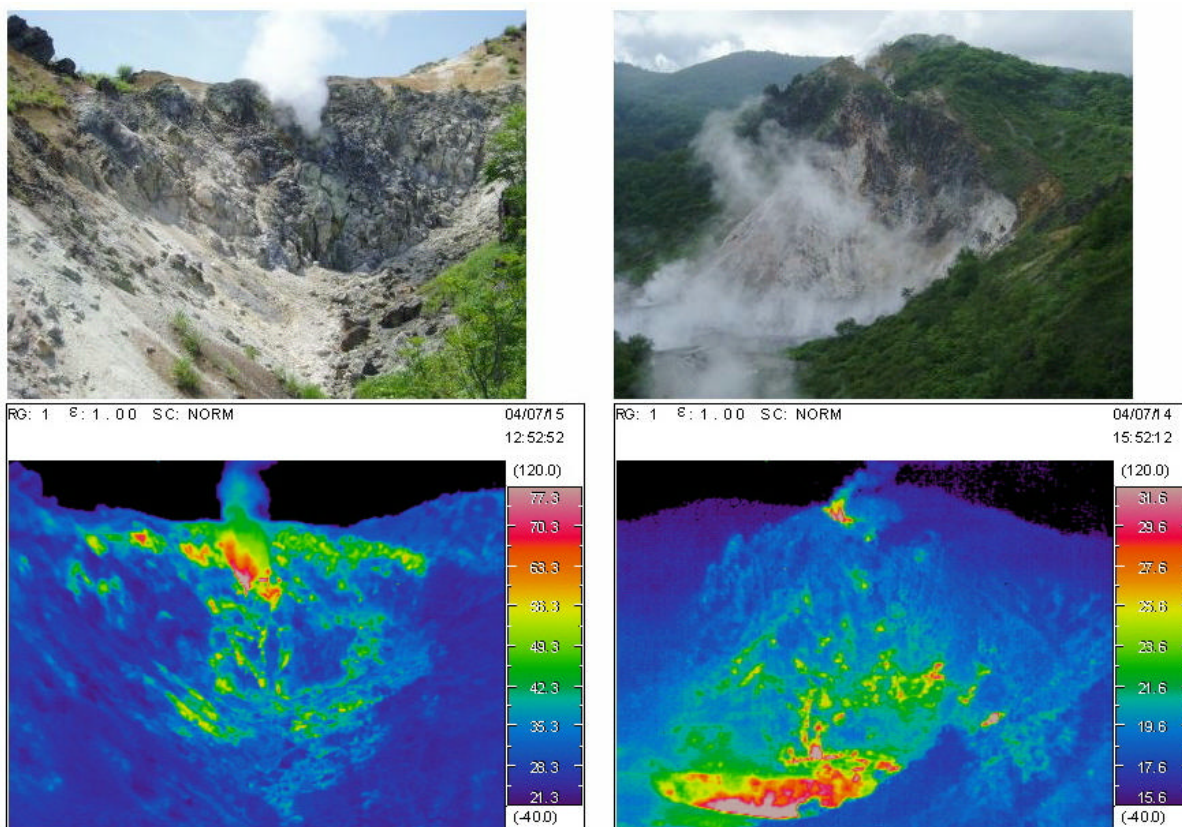
調査観測の結果、火山活動に異常は認められませんでした。

2 調査観測の結果

7 月 13～15 日に調査観測を実施しました。日和山、大湯沼、地獄谷の両爆裂火口の熱活動の状況はこれまでと比べて大きな変化はありませんでした。

【日和山】

山頂部の噴気孔は活発な噴気活動を続けており、大きな噴気音を伴って白色の噴気を勢いよく噴出していました。噴気音は約 400 メートル離れた道道倶多楽湖公園線沿いの日和山展望台からも明瞭に聞こえました。噴気温度は 120 で過去の観測結果と比べて変化はありませんでした。赤外熱映像装置*による観測でも噴気孔周辺の温度分布に大きな変化は認められませんでした。



赤外熱映像装置による日和山の表面温度分布

（左：山頂火口壁北西側、2004 年 7 月 15 日撮影 右：日和山南東斜面、2004 年 7 月 14 日撮影）

- * 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

【大湯沼爆裂火口】

大湯沼、奥湯沼、大正地獄、虚無地獄の各湯沼、地熱域では温泉の湧出と弱い噴気が認められましたが、過去の観測結果と比べて変化はありませんでした。温泉の温度は 53 ～ 96 で、変化は認められませんでした。

【地獄谷爆裂火口】

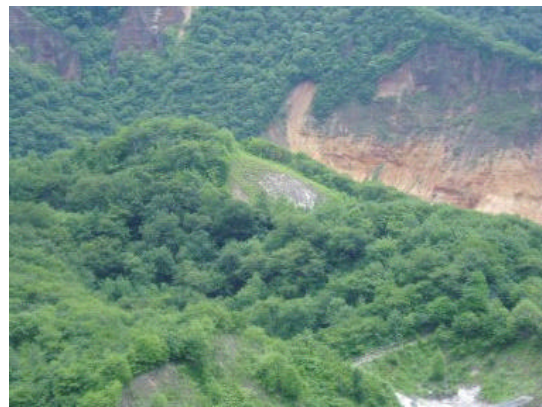
地獄谷爆裂火口内の各温泉や噴気の状態に変化は認められませんでした。地獄谷のほぼ中央に位置する東方噴気孔群（通称お初地獄）の湯溜りでは、湯面から 50～100 c m に湧き上がる活発な温泉の湧出が見られました。各温泉の温度は 80～94 で変化はありませんでした。

【笠山】

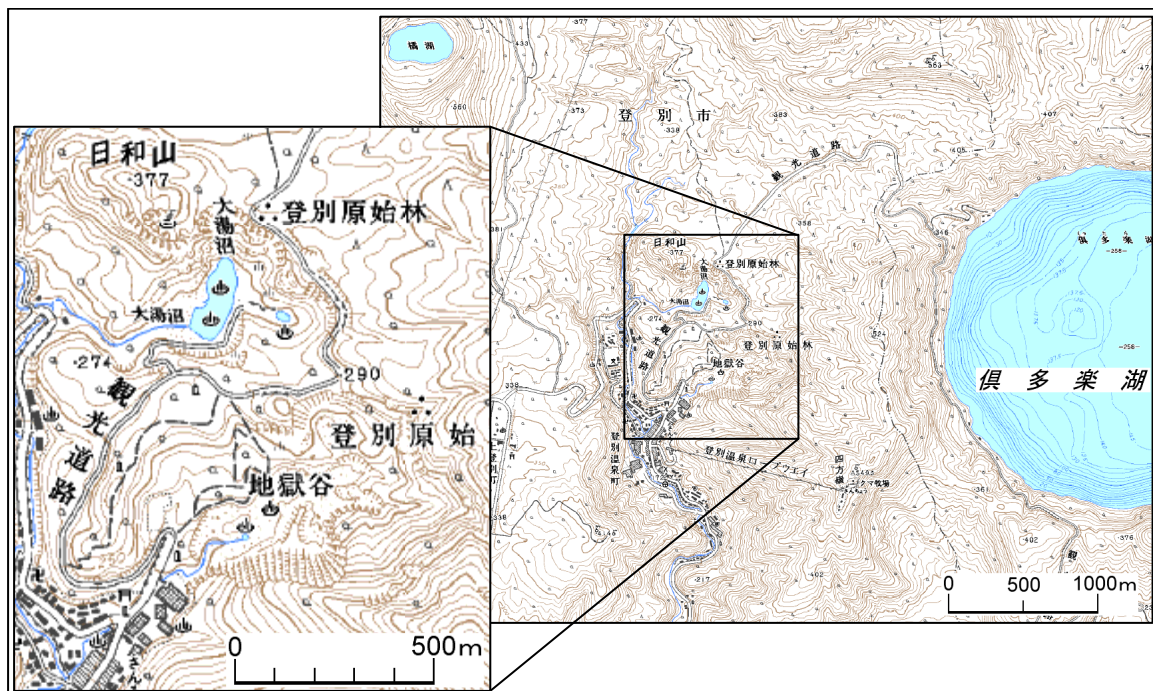
地中温度は 72 （50 c m 深）でした。長期的には低下傾向にあると思われます。



地獄谷全景（南西側から撮影）



笠山全景（日和山山頂から撮影）



倶多楽周辺図